

第3 事業実績

I アイヌに関する総合的かつ実践的な研究の推進

1 アイヌ関連研究事業

アイヌに関する総合的・実践的研究を行う事業及び研究成果などの出版に対して助成を行い、アイヌの社会や文化に関する研究の推進を図った。

(a) 研究・出版助成

- ・研究助成 アイヌの社会や文化に関する総合的・実践的研究を行うものの中で、優れた研究成果の期待できる研究計画に対し経費を助成した。
- ・出版助成 アイヌの社会や文化に関する出版物で、商業ベースに乗らないものや自費出版のため発行部数が少なく、研究者などに行き渡らないものについて助成した。
- ・助成申請・交付状況

(単位：千円)

区 分		予算額		申請実績		交付実績	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
研究助成	一般	4	4,600	3	3,284	2	1,129
	奨励	2	600	0	0	0	0
出版助成		8	9,600	7	9,186	7	9,183
合 計		14	14,800	10	12,470	9	10,312

(b) 研究成果集

・登載審査委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委 員	廣野 洋	アイヌ民族文化財団助成事業審査委員長
委 員	笹倉いる美	アイヌ民族文化財団助成事業審査委員
委 員	出利葉浩司	アイヌ民族文化財団助成事業審査委員
委 員	宇治 義之	アイヌ民族文化財団事業運営委員
委 員	持田 誠	アイヌ民族文化財団事業運営委員

・審査（在宅審査）

審査期間	審査対象の成果品	摘 要
10月30日（金）～12月 4日（金）	5件	各審査委員に成果品のコピーを送付し、在宅審査を行う。

・研究成果集の刊行

タイトル	作成時期	作成数	主な配布先
アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第20号	3月	900	道内市町村教育委員会、主な公共図書館、大学付属図書館、博物館、北海道アイヌ協会等のアイヌ関係団体、研究機関

Ⅱ アイヌ語の振興

1 アイヌ語教育事業

① 指導者育成

アイヌ語教育の充実に向けて、アイヌ語研究者などの協力を得て、アイヌ語の文法や言語学の基礎を踏まえた効果的な指導方法などについての学習機会を提供し、アイヌ語指導者の育成を図った。

(a) 講師一覧

氏名	摘要
北原モコットウナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
作田 悟	令和元年度伝承者育成事業講師（アイヌ語）
佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授
志賀 雪湖	東京外国語大学大学院非常勤講師
中川 裕	千葉大学大学院人文科学研究院教授 ※フォローアップ講座のみ参加
八谷 麻衣	令和元年度伝承者育成事業講師（アイヌ語）

アイヌ民族文化財団職員

中井 貴規	国立アイヌ民族博物館研究学芸部・資料情報室 研究員
山丸 賢雄	文化振興部・体験教育課 主事

(b) 講師会議

開催日	開催場所	協議事項等
8月26日（水）	アイヌ民族文化財団会議室（リモート開催）	・今年度の指導方針について ・第1回スクーリング・カリキュラムの作成等
10月10日（土）	札幌ハウスセミナーセンター講堂	・第2回スクーリング・カリキュラム案の作成
11月14日（土）	札幌国際ビルディング8階A会議室	・第3回スクーリング・カリキュラム案の作成
3月24日（水）	アイヌ文化財団会議室（リモート開催）	・令和2年度第12期スクーリング及びフォローアップの総括等について ・令和3年度添削指導実施に係る日程及び指導方針について ・令和3年度フォローアップ開催日程及び会場について ・令和3年度第12期スクーリング開催日程・会場について ・講師・インターンについて

(c) スクーリング

開催期間	開催場所	受講生
10月 9日（金）～11日（日）	札幌ハウスセミナーセンター講堂	岩谷実咲、織田瑞希、川上恵、郷右近富貴子、佐藤花耶、下倉絵美、邊泥敏弘、結城陸
11月13日（金）～15日（日）	札幌国際ビルディング8階A会議室	
12月 4日（金）～ 6日（日）	アイヌ文化財団会議室、TKP札幌駅南口カンファレンスセンター（リモート開催）	

(d) フォローアップ講座

開催期間	開催場所	受講生
3月19日(金)～3月21日(日)	アイヌ民族文化財団会議室 (リモート開催)	大須賀るえ子、貝澤美和子、 丸子美記子、工藤小夜、 関根健司、瀧口夕美、 川上さやか、上河彩、 加納ルミ子、葛野大喜、早坂駿

② 上級講座

アイヌ語教育の充実に向けて、アイヌ語研究者などの協力を得て、中級話者を対象に地域において講座を開設し、将来、アイヌ語の指導者となる上級話者の育成を図った。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	中川 裕	12	6月27日(土)～3月27日(土)	4
浦河	関根 健司	5	7月4日(土)～12月13日(日)	16
白糠	藤村 久和	5	8月20日(木)～2月28日(日)	13
白老	大須賀るえ子	4	8月23日(日)～11月29日(日)	15
札幌	澤井 アク	5	9月10日(木)～12月11日(金)	16
帯広	安藤日出通	5	10月21日(水)～2月17日(水)	16
阿寒	藤村 久和	5	12月21日(月)～2月7日(日)	16

*東京会場は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催回数を減らした。

③ 初級講座

(a) 親と子のアイヌ語学習

アイヌ民族の親子を対象とし、アイヌ語話者及びアイヌ語研究者の協力を得て、アイヌ語の振興及びアイヌの伝統や文化の保存を図った。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
札幌	川上 夏希	3家族 7名	7月1日(水)～3月4日(木)	23
東京	瀧口 夕美	5家族10名	6月13日(土)～3月27日(土)	8

*東京会場は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催回数を減らした。

(b) アイヌ語入門講座

アイヌ語伝承者のさらなる掘り起こしと裾野の拡大を目的にアイヌ語を学習、習得及び継承しようとする意欲のある未経験者を対象とした入門講座を実施し、中級話者及び上級話者の育成につなげた。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
札幌	阿部 一	22	7月4日(土)～12月12日(土)	20
東京	成田 英敏	13	6月24日(水)～3月10日(水)	9
白老	山丸 賢雄	32	8月7日(金)～2月19日(金)	15
釧路	奥田 幸子	28	7月1日(水)～12月8日(火)	20
むかわ	押野千恵子	23	7月3日(金)～10月30日(金)	16

*東京会場は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催回数を減らした。

2 アイヌ語普及事業

①アイヌ語発信講座

(a) ラジオ講座

アイヌ語を広く一般に普及させるため、初心者向けのアイヌ語講座をSTVラジオから放送し、多くの人にアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するとともに、アイヌ語やアイヌ文化への理解の促進を図った。

(ア) 放送内容

放送局	放送日・放送時間	講師
STVラジオ	本放送：毎週日曜日 あさ 7:00～7:15	葛野 大喜

(イ) テキスト

種別	作成時期	作成数	主な配布先
令和2年度Vol.2（7月～9月放送分）	6月	3,500	STV、道内市町村教育委員会、アイヌ協会、各地域アイヌ協会 他
令和2年度Vol.3（10月～12月放送分）	9月	3,500	
令和2年度Vol.4（1月～3月放送分）	12月	3,500	
令和3年度Vol.1（4月～6月放送分）	3月	4,000	

(ウ) 収録

令和2年度第5回放送分から令和3年度第4回放送分まで

(b) 動画講座

アイヌ語を広く一般に普及させるため、初心者向けのアイヌ語講座を動画共有サービスYoutubeにアップロードし、多くの人にアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するとともに、アイヌ語やアイヌ文化への理解の促進を図った。

(ア) 配信内容

配信動画	配信方法
年24本程度（1本につき3～5分程度）	Youtube等

(イ) 企画編集委員一覧

氏名	摘要
石田 勝也	札幌市立大学デザイン学部メディアデザインコース講師
北原モコトカサ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授
関根 健司	平取町教育委員会生涯学習課教育係アイヌ文化学習特命
中川 裕	千葉大学大学院人文科学研究院教授

アイヌ民族文化財団職員

荒田このみ	文化振興部・体験教育課 主事
北嶋 由紀	国立アイヌ民族博物館研究学芸部・教育普及室 研究員
山丸 賢雄	文化振興部・体験教育課 主事

(ウ) 企画編集委員会

開催日	開催場所	協議事項等
7月22日（水）	アイヌ民族文化財団会議室 （リモート開催）	・令和2年度アイヌ語動画講座実施概要（案） について 出演者（案）について テーマ設定と担当企画委員の選定について
8月21日（金）	アイヌ民族文化財団会議室 （リモート開催）	・第1回アイヌ語動画講座企画編集委員会 （7/22）意見等（概要）について ・動画内容及び出演者・担当企画委員の選定 について

② 弁論大会

アイヌ語を学んでいる人々の学習成果を発表する場として、アイヌ語による弁論大会を開催し、その学習意欲の向上を図るとともに、開催地域の人々にアイヌ語を直接耳にする機会を設けアイヌ語の普及を図った。

(a) 開催日時

2月20日（土）14：00～16：30

(b) 開催場所

北ガス文化ホール 中ホール（千歳市北栄2丁目2番11号）

(c) 出場者

募集期間 7月16日（木）～9月30日（水）

区 分	発表内容	出場者数（当初出場予定者）
子供の部	自由	1組2名（6組7名）
大人の部	口承文芸部門	9組9名（10組10名）
	弁論部門	2組2名（7組13名）

*新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、11月28日（土）の開催を2月20日（土）に延期した。2月の開催では口演部門を中止し、一部リモート出演を行った。また日程の変更による出演者の辞退があった。

(d) 審査委員

区 分	氏 名
審査委員長	熊谷カネ
審査委員	大野徹人、関根健司、成田英敏

(e) 表彰

区 分	発表内容	表彰者
最優秀賞	子どもの部	該当者なし
	大人の部	山田良子（千歳市） 原田啓介（平取町）
優秀賞	子どもの部	該当者なし
	大人の部	木村梨乃（平取町） 該当者なし

(f) その他

出場者募集ポスター	:	900 枚 (7月作成)
出場者募集チラシ	:	3,500 枚 (7月作成)
来場者募集チラシ	:	5,200 枚 (11月作成)
プログラムの作成	:	100 部 (2月作成)
報告集の作成	:	600 部 (3月作成)

Ⅲ アイヌ文化の振興

1 アイヌ文化伝承再生事業

① マニュアル作成

アイヌの伝統的な生活文化には、有形・無形を含め様々なものがあるが、その製作技術や儀礼などが失われつつある。このため、テーマ毎に映像と活字による「アイヌ生活文化再現マニュアル」、工芸品等の製作の様子や伝承活動を紹介する「アイヌ文化伝承活動アーカイブス」を作成し、広く人々の利用に供して、製作技術などの保存・伝承を図った。

種別	作成時期	作成数	主な配布先
活字マニュアル「山の幸の料理 平取地方」	3月	320	博物館、図書館、各アイヌ協会、アイヌ関係団体など
映像マニュアル「川の魚の料理 平取地方」	2月	350	
アイヌ文化伝承活動アーカイブスVol.5	2月	1,000	

② 実践上級講座

(a) 口承文芸伝承者（語り部）育成

ユカラ（英雄叙事詩）、カムイユカラ（神々の物語）、ウエペケレ（昔話）などの口承文芸の伝統を継承するため、伝承者が継承者へ「語り」を直接指導するなどして、新たな語り部の育成を図った。

開催地区	伝承者	継承者数	開催期間	開催回数
札幌	結城 幸司	5	12月22日(火)～2月19日(金)	15
平取	木幡サチ子	5	7月7日(火)～11月27日(金)	15
むかわ	大森きよ子	4	7月6日(月)～10月19日(月)	15

(b) 伝統文化（木彫・刺繍等）指導者育成

アイヌの人々が多く居住する北海道や関東地区において、アイヌの民族舞踊や刺繍、木彫などの講座を開設し、アイヌ文化を担う指導者の育成を図った。

開催地区	講座種別	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	刺繍	澤 節子	11	5月24日(日)～3月28日(日)	5
	編物	弓野 恵子	5	7月5日(日)～11月1日(日)	4
	音楽	千葉 伸彦	9	7月5日(日)～11月1日(日)	4
長万部	刺繍	三原久美子	9	7月5日(日)～2月21日(日)	12
釧路	刺繍	桃井 芳子	10	7月14日(火)～2月9日(火)	12
様似	刺繍	貝澤美和子	8	10月10日(土)～2月7日(日)	8

開催地区	講座種別	講師	受講者数	開催期間	開催回数
白老	刺繍	岡田 育子	8	10月5日(月)～12月21日(月)	12
白老	刺繍	山崎シマ子	11	10月30日(金)～2月27日(土)	11
伊達	刺繍	石井 美香	13	9月9日(水)～10月29日(木)	12
洞爺湖	刺繍	芳賀美津枝	2	7月2日(木)～2月18日(木)	12
平取	刺繍	藤谷るみ子	12	7月27日(月)～2月8日(月)	12
本別	刺繍	山本 栄子	5	8月21日(金)～11月10日(火)	12
むかわ	刺繍	新田 増美	8	7月2日(木)～9月24日(木)	8
八雲	刺繍	三原久美子	7	7月10日(金)～2月26日(金)	12
阿寒	編物	堀 悦子	15	11月22日(日)～2月23日(火)	12
帯広	編物	吉根とみ子	12	10月31日(土)～1月24日(日)	12
幕別	編物	竹内 明美	6	10月2日(金)～12月6日(日)	12
浦幌	木彫	清水 勇	11	7月2日(木)～8月11日(火)	11
札幌	木彫	早坂 雅賀	11	9月1日(火)～10月30日(金)	11
芽室	木彫	吉根 憲一	12	7月12日(日)～2月28日(日)	12
帯広	舞踊	酒井奈々子	15	7月12日(日)～1月31日(日)	12
札幌	舞踊	早坂 ユカ	15	7月22日(水)～10月27日(火)	12

*東京会場は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催回数を減らした。

(c) 成果発表会の開催

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。

③ 伝統工芸複製助成

アイヌの伝統的な工芸技術などを伝承するため、複製品製作を行う個人や団体に対して経費の一部を助成し、その伝承意欲や知識、技術の向上を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
25	11,700	37	11,725	32	8,710

*新型コロナウイルス感染拡大の影響により承認37件のうち5件中止

④ 風俗慣習に関する伝承事業

アイヌ文化振興の一環として、文化継承者として次世代を担う人たちが、豊富な経験や知識を有するエカシ、フチからアイヌの風俗や慣習について継承する取り組みに要する経費の一部を助成し、アイヌ文化伝承活動の促進を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
5	1,250	3	750	2	366

*新型コロナウイルス感染拡大の影響により承認3件のうち1件中止

2 アイヌ文化交流事業

① アイヌ文化交流事業

(a) 国内文化交流助成

アイヌ文化の伝承者などを招聘し、アイヌ語や民族舞踊、木彫などを学習・鑑賞・体験しようとする事業に対して経費の一部を助成し、アイヌ文化の理解の促進を図った。

(単位：千円)

区 分	予算額		申請実績		交付実績	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
道内実施	28	28,000	84	44,690	48	18,666
道外実施	12	18,000	4	3,980	1	125
合 計	40	46,000	88	48,670	49	18,791

*道内実施：新型コロナウイルス感染拡大の影響により承認84件のうち36件中止

道外実施：新型コロナウイルス感染拡大の影響により承認 4件のうち 3件中止

*実施状況の現地確認

例年、財団職員が現地に出向き助成事業の実施状況を確認していたが、令和2年度については新型コロナウイルス感染状況を勘案し、実施を取りやめた。

(b) 国際文化交流助成

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、承認した事業1件が中止となり、実施実績なし。

(7) 派遣事業

アイヌ文化活動に携わる個人または団体が、海外で文化交流活動を行う事業

(4) 招聘事業

アイヌ文化の活動に関するセミナーなどを国内で開催する際に、海外から講師などを招聘する事業

(ウ) 助成申請・交付状況

(単位：千円)

区 分	予算額		申請実績		交付実績	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
派遣事業	3	2,800	1	754	0	0
招聘事業	2	800	0	0	0	0
合 計	5	3,600	1	754	0	0

*派遣事業：新型コロナウイルス感染拡大の影響により承認1件のうち1件中止

② 青少年国際文化交流研修事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を中止した。

3 アイヌ文化普及事業

① 伝統工芸展示・公開助成

アイヌの伝統的な工芸技術などを伝承するため、優れた工芸品の展示・公開を行う個人や団体に対して、経費の一部を助成し、伝承意欲や知識、技術の向上を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
4	2,000	5	2,107	3	1,123

*新型コロナウイルス感染拡大の影響により承認5件のうち2件中止

② アドバイザー派遣

アイヌの伝統や文化についての理解を深め、技術を学ぼうとする文化団体や学校などからの要請に応じて、専門的な知識や技術等を有する人をアドバイザーとして派遣するとともに、各種学校向けにアイヌ文化体験講座をメニュー化した「学校向け（パッケージ）派遣」を設け、アイヌ文化の振興を図った。

(a) 委 嘱 286名

(b) 派遣実績 198件 延408名

(うち学校派遣：小学校 110件、中学校 20件、高校 7件、大学 4件、養護学校 8件)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響により派遣実績が減少した

前年度比 △140件 △延214名)

③ 工芸品展

アイヌの伝統的な工芸技術を用いて製作されたアイヌ民族衣装、生活用具、儀式用具、民芸品等を広く一般に公開するため、アイヌの工芸品を展示し、アイヌ文化に関する知識の普及啓発及び伝承意欲の向上等の促進を図った。

(a) 工芸品展企画委員

(ア) 企画委員名簿

役職名	氏 名	摘 要
委員長	山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
委 員	宇仁 義和	東京農業大学・博物館情報学研究室嘱託准教授
委 員	北原モコツウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
委 員	佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授
委 員	本田 優子	札幌大学教授
委 員	渡部 裕	元北海道立北方民族博物館学芸主幹
委 員	菅原 慶郎	小樽市総合博物館学芸員
委 員	山本 亜生	小樽市総合博物館学芸員
委 員	大門 哲	石川県立歴史博物館学芸課長
委 員	大井 理恵	石川県立歴史博物館学芸主任
委 員	戸澗 幹夫	元石川県立歴史博物館学芸主幹

(b) 展覧会

石川会場、小樽会場で開催を予定していた展覧会「アトウイー三つの海とアイヌ文化」については新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施を中止した。

(c) 常設展示

アイヌ文化交流センター内展示スペース、釧路空港展示コーナー、函館空港展示コーナー、帯広空港展示コーナー、新函館北斗駅、JR札幌駅、北海道庁展示スペース、胆振振興局等に衣服、木工芸品等を展示

(d) 貸出

所蔵資料の貸出 6件

アイヌ文化学習トランクの貸出 12件

(e) アイヌ文化学習トランクの作成 6セット

(f) 現代アイヌ工芸品の展示

「サラニプーアイヌの編みぶくろー」(札幌グランドホテル)

展示期間 1月14日(木)～3月5日(金)

④ 文化フェスティバル

北海道及び北海道外において、広く一般の人々を対象に、民族舞踊をはじめとするアイヌ文化を総合的に紹介するアイヌ文化フェスティバルを開催し、アイヌ民族やアイヌ文化への国民的な理解の促進を図った。

開催日・開催地	内 容	来場者数
9月27日(日) 北海道札幌市 札幌市教育文化会館	◇基調講演 加藤博文 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター長) 「アイヌ民族史の課題と展望：先住民史の創成に向けて」 ◇口承文芸 川上容子 ◇音楽公演 OKI/MAREWREW ◇古式舞踊 アンコラチメノコウタラ ※新型コロナウイルス感染状況を勘案し来場者数50%で開催	384
10月31日(土) 北海道札幌市 札幌市教育文化会館	◇口承文芸 川上容子 ◇音楽公演 OKI/MAREWREW ◇古式舞踊 アンコラチメノコウタラ	675
11月29日(日) 栃木県宇都宮市 栃木県総合文化センター	◇基調講演 篠田謙一 (国立科学博物館副館長・人類研究部長) 「DNAで解明するアイヌ・本土日本・沖縄集団の成り立ち」 ◇口承文芸 川村久恵 ◇音楽公演 星野工・居壁太 ◇古式舞踊 帯広カムイトウウポポ保存会	584
1月9日(土) 山口県下関市 下関市生涯学習プラザ	◇基調講演 石田肇 (琉球大学大学院医学研究科人体解剖学講座教授) 「日本列島の人類史解明」 ◇口承文芸 高橋ひとみ ◇音楽公演 アイヌアートプロジェクト ◇古式舞踊 アイヌルトムテ ◇紙芝居 三橋とら	97

開催日・開催地	内 容	来場者数
1月31日（日） 東京都品川区	※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施中止	—

4 アイヌ文化活動表彰事業

① 工芸作品コンテスト

アイヌの伝統的な技術による工芸作品やその技術を活用した現代的創作作品のコンテストを開催し、優秀な作品を表彰して製作技術の向上と芸術創作活動を促進するとともに、応募作品を展示し、アイヌ工芸作品を鑑賞する機会を提供した。

(a) アイヌ工芸作品コンテスト審査委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委員長	八重 清敏	公益社団法人北海道アイヌ協会認定 優秀工芸師
副委員長	浅川 泰	前北海道立近代美術館学芸部長
委 員	山本みい子	公益社団法人北海道アイヌ協会認定 優秀工芸師
委 員	貝澤 竹子	公益財団法人アイヌ民族文化財団認定 伝統工芸家
委 員	出利葉浩司	放送大学分担講師
委 員	日高 青志	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 連携推進部 副部長

(b) 審査委員会

開催日	開催場所	審査対象作品	協議事項等
9月10日(木)	かでの2・7 110会議室及び 展示ホール	136点	委員長の互選 一次審査及び二次審査 受賞作品決定

(c) 表彰式・展示

区 分	開催日または期間	開催場所	来場者数
展 示	9月11日（金）～ 9月14日（月）	かでの2・7展示ホール	604
巡回展示	9月19日（土）～ 9月21日（月）	旭川市民文化会館	147
巡回展示	10月16日（金）～10月21日（水）	有楽町朝日ギャラリー	211

*表彰式は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした

(d) 受賞者一覧

賞区分	受賞者	所在地	部 門	作品名
優秀賞	堀 悦子	浦河町	一 般	ポンサラニブ (オヒョウの木の皮の編み物)
	加藤しづゑ	札幌市	刺繍伝統	コンチ
	信太 成子	北斗市	刺繍伝統	テンキ (ハマニンニクで作った小物入れ)
入 選	相澤 道子	帯広市	一 般	ルウンペ
	門脇 賢司	札幌市	木工伝統	チシポ (針入れ)
	友田 恵子	七飯町	刺繍伝統	ルウンペ
奨励賞	山中富士子	芽室町	刺繍伝統	マタンブシ
	吉田 信男	白老町	一 般	シャケクイ熊
	鈴木千鶴子	鹿部町	刺繍伝統	チヂリ
	篠山由美子	白老町	一 般	タペストリー

賞区分	受賞者	所在地	部 門	作品名
奨励賞	宮崎知保子	札幌市	刺繍伝統	アイヌ着物 ルウンペ
	鈴木 ミチ	函館市	刺繍伝統	前掛け ルウンペ
	廣川 昌嘉	音更町	木工伝統	イタ（お盆）
	佐藤恵美子	札幌市	一 般	カパラミア文様の額装
	片山 兵衛	鷹栖町	一 般	釉象嵌アイヌ紋湯呑
	川上ききょう	平取町	刺繍伝統	オニカプンチタラペ （半分模様付きゴザ）

② アイヌ文化賞

永年にわたってアイヌ文化の向上、発展に努め、特に功績のあった人たちに、アイヌ文化賞、アイヌ文化奨励賞を贈呈して、その功績を顕彰するとともに、アイヌ文化の継承・振興にかかわる諸活動を奨励・促進した。

(a) 被表彰者推薦期間

6月30日（火）～7月31日（金）

(b) アイヌ文化賞等表彰者選考委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委員長	三上 純一	むかわアイヌ協会会長
委 員	磯部恵津子	白糠アイヌ文化保存会会長
委 員	大島 直行	前北海道考古学会会長
委 員	小川 悠治	標津アイヌ協会会長
委 員	堀 悦子	浦河町アイヌ生活相談員
委 員	本田 優子	札幌大学教授

(c) 選考委員会

開催日	開催場所	協議事項等
9月 7日（月）	アイヌ民族文化財団 会議室	委員長の互選 アイヌ文化賞及びアイヌ文化奨励賞の選考

(d) 贈呈式

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止し、各市町村へ赴いて贈呈を行った。

(e) 受賞者一覧

賞区分	受賞者	年齢	所在地	備 考
文化賞	貝澤 貢男	81	平取町	
文化奨励賞 （個人）	阿部 春江	79	平取町	
	川奈野元子	80	平取町	
	佐々木宮子	76	釧路市阿寒町	
	高野 繁廣	70	平取町	
	花岡ケイ子	75	白老町	
	広尾 正	73	帯広市	
	湊瀬 清	79	新冠町	
	八重 清敏	64	鶴居村	
（団体）	とちちエテケカンパの会	—	芽室町	

IV アイヌの伝統等に関する普及啓発

1 普及啓発促進事業

① 広報情報発信

(a) リーフレット等発行

アイヌの歴史や文化を紹介したパンフレットなどの広報資料を発行し、アイヌの歴史や文化について広く一般の人々の理解の促進を図った。

種別	言語種別	作成時期	作成数
総合版 「令和2年度アイヌ民族文化財団のあらし」	日本語版	9月	5,000
文化情報版 「アイヌ民族～歴史と文化」	日本語版	3月	15,000
	英語版	3月	5,000

(b) ホームページ

インターネット上でアイヌ文化などに関する様々な情報を国内外に発信し、その普及啓発を図る。外国人のために英文のページも開設している。

(ア) アクセス数 255,373件 (3月31日現在 対前年比 116,420件増)

(イ) 幼児向け絵本「ようかい ヤオシケプ」(令和元年度最優秀賞受賞作品) 掲載

(ウ) アイヌ生活文化再現マニュアル「捧酒箸 ～イクパスイ～」掲載

(エ) アイヌ文化伝承活動アーカイブス「技 Vol.4」掲載

(オ) 平成30年度作成アニメ DVD Oruspe Swop 4～6 (多言語字幕版) 掲載

(カ) 閲覧者の見やすさを高めることを目的としたレイアウト調整

(キ) 「アイヌ民族文化財団のあらし」「アイヌ民族～歴史と文化～」 「アイヌ語ラジオ講座テキスト」の資料請求フォームを増設

(ク) アイヌ語ポータルサイト作成

② 小中学生向け副読本の作成・配布

アイヌの歴史や文化についての児童・生徒の理解を深めるため、学校教育の場で使用される副読本を作成し、全国の小中学校へ配布してアイヌの歴史や文化などについての知識の普及啓発を図るとともに教員を対象に研修会を開催した。

(a) 副読本等

種別	作成時期	作成数	配布先
小学生用	8月	68,000	全国の公立小中学校 (道内小4学年、中2学年児童生徒全員)、都道府県教育委員会、市町村教育委員会、図書館など
中学生用	8月	59,000	
教師用指導書	8月	37,000	

(b) 教員向け研修会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を中止した。

③ 親と子のための普及啓発

アイヌの伝統などを内容とした幼児向け絵本の原作を募集し、優れた作品を表彰した。

(a) 絵本原作募集

(ア) 募集期間 7月17日(金)～9月25日(金)

(イ) 応募点数 10点

(ウ) 幼児向け絵本(原作)募集に係る選考委員一覧

役職名	氏名	摘要
委員長	八谷 麻衣	令和元年度伝承者育成事業講師(アイヌ語)
委員	長田 佳宏	平取町立二風谷アイヌ文化博物館学芸員
委員	坂田 恵子	札幌市立白楊幼稚園園長
委員	早坂 ユカ	札幌アイヌ協会会員
委員	横田由紀子	札幌大谷大学短期大学部保育科教授

(エ) 一次審査(在宅審査)

実施時期	審査対象作品数	摘要
11月	8作品	審査委員に出品作品(写)を送付し在宅審査

(オ) 選考委員会(二次審査)

開催時期	開催場所	協議事項等
12月14日(月)	アイヌ民族文化財団 札幌会議室	二次審査対象作品の選定～二次審査 受賞作品の決定

(カ) 受賞作品

種類	氏名	作品名
最優秀賞	該当者なし	—
入選	やすだこまめ	「カムイチカブ」しまふくろう
奨励賞	今井 啓介	パナンペペナンペとくま
	椎谷 朋郁	サポとマタクとサラニフと
	佐藤 志保 隅田 洋子	わあ たのしい
	間中 ムーチョ	オノンノ

(キ) 絵本の刊行

最優秀賞受賞作品がないため、刊行しなかった。

④ セミナー

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を中止した。

⑤ 講演会

広く国民一般を対象に、全国各地でその地域の社会的状況を考慮しながら、アイヌの歴史や文化をテーマとした基礎的な内容の講演会を開催し、その知識の普及啓発を図った。

開催日・開催地	演題	講師	来場者数
9月27日(日) 北海道札幌市	アイヌ民族史の課題と展望： 先住民族史の創成に向けて	加藤 博文 北海道大学アイヌ・先住民研 究センター長	384
11月29日(日) 栃木県宇都宮市	DNAで解明するアイヌ・本土 日本・沖縄集団の成り立ち	篠田 謙一 国立科学博物館副館長・人類 研究部長	584

開催日・開催地	演 題	講 師	来場者数
1月 9日 (土) 山口県下関市	日本列島の人類史解明	石田 肇 琉球大学大学院医学研究科人 体解剖学講座教授	97

⑥ イランカラフテキャンペーン

アイヌ語の挨拶の言葉である「イランカラフテ」をアイヌ文化の情報発信や理解促進のキーワードとして、アイヌ文化等への親近感や共感を高めるための取り組みを実施した。

(a) 空港等での展示

展示期間	展示場所	主な展示品
通年	旭川空港	アイヌ工芸品、リーフレット
通年	釧路空港	アイヌ工芸品、リーフレット
通年	函館空港	アイヌ工芸品、リーフレット
通年	帯広空港	アイヌ工芸品、リーフレット
通年	新函館北斗駅	アイヌ工芸品、リーフレット

(b) 札幌駅アイヌ文化情報発信コーナーpaye=an ro「パイェアン ロ」の設置

開設日：令和3年3月1日

J R札幌駅西コンコース北口にある『北海道さっぽろ「食と観光」情報館』内にアイヌ文化情報発信コーナーを設置。ディスプレイを用いた道内アイヌ文化関連施設情報の常時上映、アイヌ工芸作品の常設展示、アイヌ関連イベント等の情報発信を実施。道内アイヌ文化関連施設紹介映像については、北海道内を6エリア（道南、道央、十勝、オホーツク、道北、根釧）に分け、31施設の紹介映像を制作。

(c) 首都圏におけるアイヌ文化PR事業の実施

アイヌの歴史や文化に関する情報、アイヌ文化関連映像、アイヌ工芸品等を組み合わせた展示パッケージを制作し、首都圏（5箇所）において巡回展を実施。

会場	実施期間	来場者数
東京駅 KITTE 内東京シティアイ	2月19日～ 2月21日	380名
渋谷モディ	3月 4日～ 3月 6日	707名
東武池袋駅東武池袋マルチスクエア	3月 7日～ 3月 9日	1,334名
新宿駅西口広場イベントコーナー	3月11日～ 3月14日	1,962名
羽田空港第2ターミナルイベントスペース 南側・中央	3月19日～ 3月21日	736名

(d) 普及啓発DVD企画委員会の設置

『イランカラフテ～こんにちはアイヌ文化』（平成18年）改訂版DVDの作成。

企画委員会を設置し、内容・方針等について協議。

(e) 第48回中学生作文コンクール共催（HBC 北海道放送主催、北洋銀行協賛）

HBC 北海道放送が例年主催する「中学生作文コンクール」は、2020年度・第48回テーマを「君に逢えてよかった」とし、財団と共催で開催。ラジオ特別番組及びwebコンテンツを制作、公開。アイヌ民族文化財団賞を設置し、アイヌ文化をテーマとした作品の表彰を実施。

(f) 令和2年度多摩市人権啓発事業「人権のつどい」（多摩市共催）

多摩市がアイヌ文化の理解促進を目的として実施する人権啓発事業「人権のつどい」を共催で実施。

区分	実施期間	開催場所	来場者数
パネル展	10月 1日～10月 7日	多摩市立関戸公民ギャラリー	265名
講演会	10月 4日	聖蹟アウラホール	90名
写真展	2月16日～ 2月22日	多摩市立永山公民館ギャラリー	836名
スライドトーク	2月21日	多摩市消費生活センター講座室	21名

(ア) パネル展

アイヌ文化紹介や工芸品展示、アニメDVD等の上映など

(イ) 講演会

「アイヌ文化の魅力～アイヌの叡智と世界観～」

講師 中川 裕（千葉大学大学院人文科学研究院教授、言語学者、アイヌ語研究家）

(ウ) 写真展&スライドトーク

宇井真紀子氏アイヌ写真展&スライドトーク『アイヌ、現代の肖像』

講師 宇井真紀子（写真家）

(g) イランカラプテキャンペーン普及啓発事業に係る視聴覚資料製作

タイトル「アイヌの絵本 vol1-1」 4000部

2 アイヌ文化交流センター事業

首都圏に居住するアイヌの人々の交流活動やアイヌ文化の伝承活動などを支援するとともに、アイヌと一般の人々との交流の場やアイヌ文化などに関する情報収集・発信の場として、多角的な機能をもつアイヌ文化交流センターを運営した。

(a) 常設展示の実施

(b) アイヌ関係図書や映像資料の閲覧

種別	購入数	寄贈数	総数	備考
図書	119	27	5,676	
映像	0	9	528	DVD 196本含む

(c) イランカラプテ・アイヌ文化体験講座

開催日	開催場所	講座種別	講師(助手)	受講者数	受講対象者
10月22日(木)	アイヌ文化交流センター	刺繍	宇佐 恵美	9	一般
11月26日(木)	アイヌ文化交流センター	刺繍	宇佐 恵美	10	一般
12月24日(木)	アイヌ文化交流センター	刺繍	宇佐 照代	4	一般
3月25日(木)	アイヌ文化交流センター	刺繍	宇佐 照代	10	一般

(d) 交流センター利用者（年間）

区分	利用者数	対前年比
アイヌ関係者	383	△ 605
一般	1,219	△2,181
合計	1,602	△2,786

*新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館の期間を設けた。

V アイヌ文化の伝承者育成

1 伝承者育成事業

アイヌ文化における様々な技術や言語等を総合的又は分野別に身につけそれらを伝承する者の育成を図る。

(a) 昼間型

アイヌ文化に関する知識や技術・技能を身につけ、実施地域のニーズを踏まえて策定した伝承者育成プログラムにより、地域のアイヌ文化を根底から支える人材(伝承者)の育成を図る。

区 分	事業内容等	開催期間
5期生 1年目	・受講者 4名 ・受講日数 182日 ・講義及び実習	6月25日(木)～3月31日(水)

(b) 夜間型

アイヌ文化に関する知識や技術・技能を身につけ、特定分野に関する高度な知識・技術・技能の修得を行い、地域のアイヌ文化を根底から支える人材(伝承者)の育成を図る。

区 分	事業内容等	開催期間
イタ	・受講者 4名 ・受講日数 24日 ・講義及び実習	9月2日(水)～2月16日(火)
アットウシ (反物)	・受講者 4名 ・受講日数 48日 ・講義及び実習	6月13日(土)～3月10日(水)

VI 民族共生象徴空間運営事業

1 民族共生象徴空間運営管理事業

① 国立民族共生公園等管理業務

(a) 目的

国立民族共生公園では自然と共生してきたアイヌ文化を尊重し、多様な来場者の理解を促進するとともに、豊かな自然を活用した憩いの場の形成等を通じ、アイヌ文化の継承や新たなアイヌ文化の創造発展につなげる。目標年間来場者100万人の達成に向けて、伝統芸能上演プログラムや体験交流プログラムのほか、来場者サービスの提供、広報・誘客促進など、民族共生象徴空間の管理運営に必要な業務を国土交通省から受託し実施した。

(b) 事業内容

(7) 伝統芸能の上演及び体験交流プログラムの提供に関する業務

<プログラムの運営企画・実施>

体験交流プログラムの提供、実演モニターの増設などプログラムに必要な物品や材料のほか、コロナ対策に必要な物品等を調達した。

体験プログラムの実績及び来場者アンケート等を踏まえ、各プログラムの見直し及び新

プログラムを実施した。

また、新型コロナウイルス感染防止対策として、ソーシャルディスタンスを確保できるように参加人数制限等を実施した。

- ・体験交流ホールのほか、チキサニ広場及びコタン前広場で伝統的な舞踊、歌、楽器演奏等を上演した。
- ・体験学習館でムックリ演奏及び製作体験、アイヌ料理実食及び調理体験、キッズプログラム、アイヌ語プログラム等を実施した。
- ・伝統的コタンで口承文芸実演、丸木舟操作実演・解説等を実施した。
- ・工房でアイヌ文様刺繍体験、アイヌ文様木彫体験等を実施した。
- ・民族衣装着用体験はAR（仮想現実）を用いて実施した。なお、伝統儀礼公開、民族衣装着用体験、生業用具製作体験の提供（伝統的コタン）は、新型コロナウイルス感染防止のため、実施を見合わせた。
- ・冬期のプログラムとして、芝生広場及びコタン前広場でウパシチャラセ（雪すべり）、イラマンテ（猟・漁）、シノッ（輪投げ付き、投げ輪、棒なわとび）、クチャ（狩小屋）を実施した。

<伝統工芸家等の招へいによる技術の実演>

各地域の伝統工芸家・優秀工芸士等を招へいし、工房において製作を実演する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため、実施を見合わせた。

<伝統的チセの建築>

伝統的コタンゾーンにチセ1棟を建築した。建築にあたっては、体験交流プログラムの一環として、建築過程を公開し、作業内容や工程、構造等の説明看板を設置し、来場者にわかりやすく説明した。

<夜間プログラムの運営>

夜間開園時に、アイヌ文化に関連するエンターテインメント性のあるプログラムを提供した。

- ・体験交流ホールの外壁等を活用したプロジェクションマッピング及びLEDオブジェショーを実施した。
- ・体験交流ホール内でアイヌ文化にもとづく短編映像を上映した。
- ・体験学習館で、アイヌ文化にもとづくVRによる360度映像の体験を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、ドーム型スクリーンによる映像体験を実施した。

<プログラム映像作成>

伝統芸能上演プログラムにおいて、上演内容の変更に伴う代替映像の作成や必要な映像調整を行った。

<体験交流ホールの運営>

体験交流ホールにおける映像・音響及び照明機材について、演目の演出に応じた操作を

行った。また、機材のメンテナンスを適時に実施した。

<休憩スペース等設置>

来場者が園内において快適に滞在できるよう、テント、休憩所、仮設トイレ等を設置した。

(イ) 来場者に対する園内サービスの提供に関する業務

- ・入場券等の販売、Web等による前売券の販売、キャッシュレス決済等の業務に必要な物品、サービス等を調達、提供した。
- ・デジタルサイネージなどの情報発信機器を活用し、園内案内を実施した。また、デジタルサイネージは災害時の情報発信が可能となるよう整備した。
- ・案内スタッフがAI翻訳機を携帯し、外国籍の来場者との対応に活用するとともに、多言語通訳サービスを導入し、苦情等のトラブルに適切に対応できる態勢を整備した。
また、園内に整備された無料Wi-Fiを活用した案内サービスとして、音声ガイドアプリを提供した。

(ウ) 広報及び誘客促進等に関する業務

目標年間来場者数100万人の達成に向け、一層の認知度向上及び誘客促進を目的とした広報、誘客活動等を実施した。

- ・ウポポイホームページを開業前にリニューアルし、内容の充実及びユーザビリティの向上を図るとともに、季節に応じた適時の更新を実施した。また、FacebookなどのSNSを活用し、ウポポイの見どころやイベント等を適時に発信した。
- ・開業前には町民内覧会、メディア内覧会及び開業式典を、開業時にはセレモニーを開催するなど、ウポポイの認知度向上に努めた。
- ・ロゴ、写真、キャラクター(トゥレップン)の画像使用承認を通じ、民間事業者が行うウポポイ応援商品の開発及び出版物でのウポポイPRに努めた。
- ・民間事業者行うイベントに広報媒体を提供し、ウポポイPRに努めた。
- ・新聞、雑誌等の出版物におけるウポポイ紹介記事及びラジオ、テレビ局が企画する番組への出演協力等を通じ、ウポポイの認知度向上及びPRに努めた。
- ・前年度に引き続き旅行会社との観光クーポン契約を締結するとともに、新規事業者との追加契約を行った。
- ・教育旅行催行の旅行事業者等に対し、見学可能な施設等をウポポイ側から提案、調整するなど、学校等教育機関の積極的受け入れ及び満足度向上に努めた。
- ・冬期の誘客対策として、旅行事象者に対する旅行商品造成のための募集を行った。

(エ) 来場者の安全確保

開業前に、防火・防災等危機管理計画及び防災消防訓練の説明会、地震・津波を想定した防災訓練及び白老消防署の指導による救命講習を実施した。また、次に掲げる備品、設備を設置し、来場者の安全確保に努めた。

- ・災害備蓄品の確保

- ・監視カメラの設置
- ・柵・浮具の設置、監視カメラ、電灯の設置などによるポロト湖落下防止対策の実施

(オ) 施設維持管理業務

良好な状態で施設を維持管理していくため、国立民族共生公園、慰霊施設及び管理運営施設の建物・設備管理業務、警備・巡視業務、清掃業務、廃棄物処理業務、除雪業務、利用・案内業務及び植物管理業務を委託した。併せて、新型コロナウイルス感染防止対策として、サーモグラフィ、検温所等を設置したことを踏まえ、これに付随する誘導及び監視等の業務を委託した。

② 国立アイヌ民族博物館管理業務

国立アイヌ民族博物館は先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展につなげる。展示の企画、調査・研究業務の企画、資料調査、教育普及など、博物館の管理運営に必要な以下の業務を文化庁から受託し実施した。

(a) 調査研究・交流に関する業務

(ア) 調査研究事業の企画・立案及び実施

アイヌの歴史と文化に関する調査研究及び博物館機能強化を目的とした調査研究、アイヌの歴史文化等に関する資料・資材・情報等の収集調査計20件のプロジェクト企画・立案し実施した。

(イ) 道内博物館との連携した調査研究等を実施するため「国立アイヌ民族博物館ネットワーク協議会」を設置。さらに国内外の博物館とのネットワーク構築に向けた企画及び交渉

「国立アイヌ民族博物館ネットワーク協議会設立準備委員会」を設置し、ネットワーク構築に向けた協議を行い、ネットワーク名を「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）」と決定し、道内外の博物館関係機関を対象に入会募集を行い、51施設が入会した。

また、共同研究の推進と教育活動の協力を目的とし、11月に当館と北海道大学アイヌ・先住民研究センターが学術連携協定を締結した。

(ウ) 国内の研究集会（シンポジウム）の企画・開催（1件）

北海道大学アイヌ・先住民研究センターと共催により、当館との学術連携協定に関するキックオフシンポジウムを3月に開催した。

(エ) 研究成果の社会発信のため、最新の研究成果に関するパネル展等の実施

研究成果の社会発信として、論文（査読有）6件、論文（査読無）15件、寄稿・解説等34件のほか、学会発表（国外）4件、学会発表（国内）7件、講演会・講義18件を実施した。また、前年度から引き続き「国立アイヌ民族博物館開館PR展ヤヨペヨペ」を道内2件、道外

1件の計3件開催した。

(f) 科学研究費補助金の獲得を目指した取組みの実施

研究機関における公的研究費の管理・監査および研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインを基に、当財団における規程・要領を5件定めた。また、査読付きの学術論文を6件投稿した。

(g) 国内の博物館所蔵アイヌ資料の調査実施

新型コロナウイルスの影響により、今年度の調査は道内に重点化し、平成30年度、前年度と継続していた浦河町立郷土博物館所蔵のアイヌ資料調査を実施した。調査内容については報告書を作成した。

(h) 紀要(研究報告)ニューズレターの等の編集及び刊行

当館における研究成果及び活動内容等を研究機関等に発信する国立アイヌ民族博物館ニューズレター「アヌアヌ」を編集・発行し、関係機関・関係者等延べ2,965か所(創刊号:993、2号:988、3号:984)に計6,389部(創刊号:1,874、2号:2,143、3号:2,372)送付した。

また、浦河町立郷土博物館所蔵のアイヌ資料調査に関する報告書を作成・刊行した。

(b) 展示企画に関する業務

(f) 4月開館日より開館記念特別展「私たちの受け継ぐ文化ーアイヌ文化を継承する」を開催

国立アイヌ民族博物館開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化 ～アイヌ文化を未来へつなぐ～」を下記のとおり実施した。

後援者名	北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会、北海道新聞社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞札幌支社、読売新聞北海道支社、苫小牧民報社、室蘭民報社、NHK北海道、北海道放送、STV札幌テレビ放送、北海道テレビ、北海道文化放送、テレビ北海道、STVラジオ、AIR-G'エフエム北海道、エフエム・ノースウェーブ
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 特別展示室 令和2年7月12日～令和2年11月8日
入場者数	118,707名
入場料金	本特別展については無料(ただし、ウポポイ(民族共生象徴空間)入園に際しては入園料を徴収)
事業内容	出品協力及び展示数: 浦河町立郷土博物館、萱野茂二風谷アイヌ資料館、個人、文化庁、公益財団法人アイヌ民族文化財団 約160点 関連事業: 開催要項に記載の「関連事業」については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、開催中止とした。

(i) 第2回特別展「ヘカチとマッカチーアイヌと北方諸民族の子育て ロシア民族学博物館アイヌコレクションから」の9月開催に向けた準備及び開催

世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催を延期することとした。

(ウ) 開館1周年特別展「アイヌ民族の文化財展」の3月開催に向けた準備及び開催
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催を延期することとした。

(エ) 次年度に開催する特別展に係る企画立案及び準備

新型コロナウイルス感染拡大に伴う人的・物的な往来の制限を踏まえ、次年度に開催する特別展及びテーマ展示の企画内容等の再検討・スケジュールの再調整などを行い、下記のとおり企画立案するとともに、必要な準備を行った。

- ・テーマ展示：収蔵資料展「イコロ ～資料にみる素材と技～」 [3期]
→令和3年3月30日（火）から5月23日（日）まで、54日間
- ・第2回特別展示：「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン — 杉元佐一とアシリパが旅する世界 —」→令和3年6月26日（土）から8月22日（日）まで、57日間
- ・第3回特別展示：「国立民族学博物館巡回展：ビーズ」（仮称）→令和3年9月18日（土）から11月21日（日）まで、64日間【調整中】
- ・テーマ展示：[シリーズ各地のアイヌ文化] 「白老アイヌの伝承展」（仮称）
→次年度冬季もしくは令和4年度春季【調整中】
- ・パネル展示：「触る、見る、聞く、国立アイヌ民族博物館」（仮称）
→令和3年8月21日（土）から9月12日（日）まで、22日間【調整中、交流室】
- ・交流室脇ケース展示：「国立アイヌ民族博物館のアイヌ語」→【会期検討中】

(オ) テーマ展示の企画、計画の作成及び開催（年度内に2回）

下記のとおりテーマ展を開催した。

- ・第1回テーマ展示：収蔵資料展「イコロ ～資料にみる素材と技～」 [1期]
→令和2年12月1日（火）から令和3年1月24日（日）まで、54日間
- ・第1回テーマ展示：収蔵資料展「イコロ ～資料にみる素材と技～」 [2期]
→令和3年2月2日（火）から3月21日（日）まで、47日間

(カ) 東京パラリンピック等のイベントに関連したパネル展等の企画、計画及び開催

世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、東京パラリンピックが次年度に延期されたことを踏まえ、パネル展も延期することとした。

(キ) 博物館内の展示替えの企画立案、解説文・グラフィックの作成、資料の借用等の実施

資料保存の観点から概ね60日を目安に展示替えを定期的に行うこととして計画を策定の上、年度内に計4回実施した。

・今年度基本展示室資料借用先

新ひだか町博物館・厚岸町教育委員会・釧路町教育委員会・釧路市教育委員会・川村カ子トアイヌ記念館・別海町教育委員会・北海道博物館・北海道立北方民族博物館・帯広百年記念館・沙流川歴史館・株式会社十勝毎日新聞社・函館市中央図書館・市立函館博物館・北海道立図書館・公益財団法人北海道埋蔵文化財センター・江別市教育委員会・北海道立文書館・北海道大学アイヌ・先住民研究センター・東通村教育委員会・平取町

立二風谷アイヌ文化博物館・幕別町教育委員会・恵庭市教育委員会

- (ク) 展示解説に関する音声ガイド機器の維持管理及び内容の更新、携帯アプリの配信及びコンテンツの更新

音声ガイド機の維持管理及び内容の更新は、新型コロナウイルス感染予防対策の一環として機器の貸出を停止していたため今年度は実施しなかった。

携帯アプリの配信を行うとともに、常時正常かつ良好な稼働状態を保つよう保守管理を行った。

- (ケ) 「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」の運営

「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」を2回、「新語検討ワーキング会議」を1回それぞれオンラインにより開催し、アイヌ語表示等の検討、解説文や表示のデータベース化、新語の検討等を行った。

- (コ) 展示関連の図録、ポスター・チラシなどの印刷物の企画・編集

第1回テーマ展示「収蔵資料展 イコロ ～資料にみる素材と技～」のパンフレット（8ページ）を作成し、特別展示室にて無料で配布した。

なお、前年度に作成した開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化 ～アイヌ文化を未来へつなぐ～」（8ページ）を、会期中に特別展示室にて無料で配布した。また、同じく前年度に作成した『国立アイヌ民族博物館ガイドブック』（72ページ）を開業式典で配布したほか、国内の博物館、図書館等の関係諸機関、さらに展示協力者等に発送した。

- (c) 資料の収集・保管等に関する業務

- (ア) 博物館におけるアイヌ文化関係資料等の受入及び貸出

令和2年度においては、買取により95件110点、寄贈により8件11点のアイヌ文化関係資料等を博物館の列品として受入れた。

また、仙台藩白老元陣屋資料館に1件5点（令和2年8月16日～9月30日）の貸出を行った。

- (イ) 「鑑査会議」の運営

鑑査会議を2回開催し、博物館における資料の収集方針及び買取基準を定めるとともに、受入候補となった資料の買取及び寄贈受入の可否について審議を行った。

- (ウ) 博物館及び旧社台小収蔵庫での資料整備（クリーニング、生物処理、燻蒸、修復・復元等）の実施

旧社台小学校仮保管場所で仮保管中の列品等について、コンディション維持を図るため、496点のクリーニング作業を実施した。

また、列品の中に、カビの発生が疑われる生物処理が必要な資料があったため、薬剤燻蒸を実施し資料状態の健全化を図った（薬剤燻蒸：1回実施、処理資料数：100点）。

(エ) 博物館における資料の管理及び収蔵品管理システムへのデータ登録、同システムの保守管理の実施

旧（一財）アイヌ民族博物館の資料と平成27年度から前年度までの文化庁購入資料について収蔵品管理システムへの登録作業を行った（資料画像登録件数7,156件）。また、システム登録した155件の資料及び416件の画像を博物館ホームページにて公開した。

同システムの開発業者と保守契約を締結し、定期メンテナンスを行った。

(オ) CT など調査分析機器等の保守管理の実施

博物館に設置された下記の調査分析機器について、調査研究等で利用できるよう保守管理を実施した。

- ・蛍光 X 線分析装置 : 納品後の機器点検（1 回実施）
- ・X 線回折装置 : 納品後の機器点検（1 回実施）
- ・走査電子顕微鏡 : 納品後の機器点検（1 回実施）
- ・X 線 CT 装置 : 納品後の機器点検（1 回実施）
制御用ソフトウェアのバージョンアップ（1 回実施）
制御用ソフトウェアの不具合対応（3 回実施）
- ・三次元蛍光分光分析装置 : 納品後の機器点検（1 回実施）
- ・ハイパースペクトルカメラ : 納品後の機器点検（1 回実施）
- ・キセノン型耐候試験機器 : 納品後の機器点検（1 回実施）
初期不良による部品交換（1 回実施）
- ・純水製造装置 : 納品後の機器点検（1 回実施）
- ・恒温恒湿機・恒温機 : 納品後の機器点検（1 回実施）

(カ) 博物館における文化財資料の収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）に関する計画の作成及び実施

- ・収蔵庫については、文化財資料に適した収蔵環境となるよう、継続的に空調制御による空気循環を繰り返し温湿度制御を実施するとともに、温湿度データのモニタリングを実施した。併せてパッシブインジケーターによる有機酸濃度、アンモニア濃度の測定を 2 回行い、共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認した。さらに、非常時を想定し空調停止時の温湿度調査を 2 回実施した。
- ・展示室及び展示ケース内の環境についても温湿度データのモニタリングを実施し、測定値に応じて調湿剤による対応を行った。併せて、展示室内及び展示ケース内の空気汚染物質濃度の調査を実施した。各ケースにガス吸着剤を設置し、東京文化財研究所の指針値以下の状態を維持した。
- ・館内 105 箇所に害虫トラップを設置して 1 ヶ月毎に回収して害虫調査を行い、必要に応じて虫が潜みやすい隙間に殺虫剤を噴霧する等の対応を実施した。
- ・旧社台小学校仮保管場所についても温湿度データのモニタリングを実施し、毎日の目視監視や空調制御を行い良好な収蔵環境を維持した。また、仮保管場所及びその周囲に害

虫トラップ 30 箇所設置し、定期的に回収して捕獲された害虫を調査した。

(d) 教育普及に関する業務

(ア) 博物館における教育事業（ギャラリートーク、ワークショップ、出前授業・遠隔授業等）の企画立案及び実施

- ・当館側の遠隔授業システムを活用し、3校（小学校1校、中学校2校）に対し3回の遠隔授業を実施した。
- ・苫小牧市の高校1校に講師として研究員を1名派遣し、出前授業を実施した。また、当館における出前授業の対象や範囲を設定した。
- ・ホリデーイベントについては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いつつ、試行的に令和2年8月と令和3年1月から毎週、通算14回実施した（工作型6件、講演型1件、対話型4件、ガイド型3件）。また記録および試行運用検証のためアンケートを作成した。
- ・ギャラリートークは、新型コロナウイルスを考慮しながら探究展示（「かわりにテンパテンパ」）と「ことば」展示（「Touch itak」）で実施し、通算8,965組19,435名の来館者に対応した。

(イ) アイヌの人たちに対する文化伝承に資する研修の企画立案及び実施

前年度までに検討されたプログラムの実施は見送り、工芸者研修のみ実施した。北海道アイヌ協会からの依頼を受け、受入について方針を固めたのち、計6日間にわたり1名の受入を行った。調査者の希望から、白老地方を含む北海道噴火湾沿岸部とみられる衣服16着の調査を実施した。

(ウ) 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討

北海道博物館をはじめとして、他の国公立博物館の博物館実習受入れ状況について調査・検討するとともに、旧（一財）アイヌ民族博物館の博物館実習について検証し、学芸員実習受入取扱要領（案）を作成した。

(エ) 学校における博物館利用の促進のための事業の企画立案及び実施

主に教育旅行で来館する小学校から高等学校までを対象とした学習プログラム「はじめてのアイヌ博」及び小学3、4年生向けの平易なクイズ形式の学習プログラムを開発し、今年度は延べ191件12,613名の児童生徒および引率者に対して実施した。

(オ) 博物館のホームページの運用及び更新

ウポポイのホームページと連携した博物館ホームページを作成し、オンラインによる日時指定予約制の導入など新型コロナウイルス感染拡大防止への取組の公表や、収蔵品管理システムによる画像公開、ホリデーイベントの告知など、随時更新を行うとともに機能の充実を行った。

(カ) ライブラリーの運営（閲覧、複写、レファレンス等）

日本図書館協会のガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染拡大防止策を施して、

ライブラリーの試験運用を行ったうえで、9月より密を避けるため人数制限行いながら開室し、図書の閲覧、複写、レファレンスに対応した。

また、図書館システムへの図書の登録作業を約8,000冊分行い、7月にOPAC（蔵書検索システム）を公開するとともに、図書館間相互利用のため、国立情報学研究所による目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）に加入した。

加えて、旧社台小学校に仮置きしている図書のうち約6,000冊を当館閉架書庫へ移送し、併せて資料状態の良くない一部の図書については、燻蒸を行った。

(e) 博物館施設管理等に関する業務

(ア) アイヌ資料及び図書文献資料の購入

令和2年度においては、監査会議、買取協議会及び買取評価員による評価会を各2回開催するとともに、それらの評価結果を踏まえて申出者7名と交渉を行い、95件110点のアイヌ資料及び文献資料を購入した。

(イ) 博物館の調査研究・展示・資料管理・教育等に必要な設備備品の購入

資料の三次元計測を行うための3Dスキャナ及びハンズオン展示等で使用する展示備品の作成等に必要な3Dプリンタの購入を行った。

(ロ) 博物館に関する広報活動の企画立案、広報媒体の作成及び展開

博物館ホームページ上で、オンラインによる日時指定予約制の導入等新型コロナウイルス感染拡大防止の取組に関する情報提供や、ホリデーイベントの告知など広報活動を行った。

また、前年度に引き続き「国立アイヌ民族博物館開館PR展ヤヨペヨペ」を道内2件、道外1件を開催するとともに、ニューズレター「アヌアヌ」による博物館活動の発信、開館記念特別展やテーマ展のパンフレットの作成・来館者への配布等を行った。

加えて、新聞コラムでの関連記事掲載や、TV等マスコミ等の取材協力等を通じた広報活動を展開した。

(ハ) 館内 LAN 等情報機器の運用及び保守管理

館内情報機器に関しては、専門業者と保守契約を締結し、常時リモートサポート及び定期メンテナンスを行った。

また、館内ネットワーク運用に関しては、専門知識を有する者を配置して常時ネットワークの監視等を行うとともに、博物館に情報セキュリティ委員会を設置して定期的に運用状況の報告や運用上生じた課題の検討等を行った。

(ニ) 博物館施設の維持管理(施設設備管理、警備、清掃、廃棄物処理等)の実施

博物館施設を良好な状態で維持管理するため、建物設備等の点検、24時間常駐による警備、館内各所の清掃、廃棄物処理等を適切に実施した。

(ホ) 来館者対応業務(受付・案内、音声ガイド貸出・回収、監視、混雑時の誘導等)の実施

博物館内各所(入口、受付カウンター、シアター、基本展示室・特別展示室、ライブラリ

ーなど)に必要な要員を配置し、来館者への接客対応や案内等を行った。なお、音声ガイド期の貸出・回収業務については、新型コロナウイルス感染防止のため実施しなかった。

(ウ) 民族共生象徴空間におけるアイヌ語体験プログラムの実施

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めつつ、下記のプログラムを実施した。なお、アイヌ語に触れるだけではなくアクセントや発音などを重点的に学習し、ひとつでもアイヌ語を覚えてもらい「アイヌ語っておもしろいな、もっと知りたいな、また来たいな」というきっかけ作りとなれるよう工夫をしながら行った。

- ・紙人形を使い、誰でも知っているお話をアイヌ語のみで紹介するキッズプログラム「ポン劇場」
- ・アイヌ語担当職員がウポポイ内を歩きながら子供にお声がけをし、アイヌ語を復唱してもらって学習プログラム「アイヌ イタカリ アイェ ロ！」
- ・オリジナルビンゴカードの使ったビンゴゲームを盛り込んだ大人も参加できる学習プログラム「ピリカ！ ビンゴ アキ ロ！」

③ 広報活動等事業(令和元年度補正繰越分)

(a) 広報活動

(ア) 目的

ウポポイの開業直前・直後の時期に、認知度の飛躍的向上を図り、多くの方にウポポイの魅力を知ってもらうためのプロモーション活動を集中的に実施した。

(イ) 事業内容

○ 内覧会及び記念式典等を通じたPR

- ・開業前には、メディア内覧会及び関係団体ほか来賓の出席を得て記念式典を実施した。
- ・開業日には、開業記念オープニングセレモニーを実施したほか、PRアンバサダーやオフィシャルサポーターのスペシャルトークステージを実施した。

○ 新聞・ラジオ等のマスメディアを通じたPR

全国紙及び道内地元紙にウポポイ開業についての新聞広告を掲載したほか、ラジオCMや全国テレビを含むテレビ番組にウポポイを取り上げていただくなど、道内外に対して積極的なPRを実施した。

○ 旅行ガイドブック等の出版物を通じたPR等

旅行ガイドブックや道内フリーペーパー、首都圏鉄道広告やWEB広告に出稿し、ウポポイ開業について道内外に対して積極的なPRを実施した。

(b) 夜間開園時に実施するエンターテインメント性のあるプログラムの準備

(ア) 目的

ウポポイの夜間開園時に、アイヌ文化に関するエンターテインメント性のあるプログラ

ムを提供するためのコンテンツの制作を行った。

(イ) 事業内容

以下のVR体験コンテンツ等の追加制作を行った。

- ・体験交流ホールの外壁等を活用したプロジェクションマッピングを制作
- ・アイヌ文化にもとづく短編映像の制作（体験学習ホール）
- ・アイヌ文化にもとづくVRによる360度映像及びドーム型スクリーンによる映像を制作（体験学習館）

④ アイヌ語アーカイブ事業

(a) アイヌ語のアーカイブ作成事業

(イ) 静内及び沙流地方のアイヌ語資料のアーカイブ作成

静内方言の音声資料50件12時間42分、沙流方言の音声資料32件20時間52分のアーカイブを作成した。

(イ) アイヌ語辞典のweb公開

現在公開しているアイヌ語辞書の利用許諾期間(5年間)が年度末に満了するため、権利者等と期間延長(5年間)の契約を締結した。

(b) アイヌ語アーカイブ作成推進のための人材育成

(イ) オンライン教材の作成

5種のオンライン教材(アイヌ語アーカイブ、アイヌと自然デジタル図鑑、月刊シロロ、旧アイヌ語アーカイブ、デジタル絵本(youtube))の配信を行った。

(イ) スクーリング(アイヌ語合宿)

9月白老、12月平取の計2回開催し、延べ128名が参加した。

(イ) システムの構築

現行のアイヌ語アーカイブにGoogleアプリとの連携機能や京都大学情報学研究科河原研究室が開発したAIによるアイヌ語音声認識技術を組み込むことで、アーカイブ作成の一層の効率化とアイヌ語学習環境の充実を図った。

(c) アナログ資料のデジタル化

旧アイヌ民族博物館が所蔵するアイヌ語の物語等の音声資料50件、聞き取り調査の音声資料32件のデジタル化を行った。

2 民族共生象徴空間収益事業

① テナント管理事業

(a) 目的

来場者に対して、飲食・物販の基本的サービスに加えて、アイヌの伝統的料理や伝統工芸

品などを販売するために、テナント管理を実施するとともに、テナントと協働してメニュー開発、商品開発を実施した。

(b) 事業内容

(ア) テナントの管理

- ・飲食4店舗及び物販2店舗に関し、売上管理、テナント指導（衛生管理、商品管理、利用者サービス）等を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、来場者の誘導、什器の消毒等を協働して実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う来場者数減少を踏まえ、賃料減免等のテナント支援を実施した。

(イ) メニュー開発

アイヌの伝統的食材や季節の食材などを用いた新メニューや、既存メニューの新フレーバー開発を協働して実施した。

(ウ) 商品開発

既製品パッケージデザインへのアイヌ文様の採用、PRキャラクターのオリジナルグッズ開発等を協働して実施した。

② 駐車場事業

(a) 目的

車で来場する方のために、園内第1駐車場、園外第2駐車場及び慰霊施設駐車場の維持管理を実施した。

(b) 事業内容

(ア) 駐車場の維持管理

自動ゲート等の設備の維持管理を行うとともに、必要な警備員を配置し、来場車両の誘導整理を実施した。

(イ) 駐車場料金の徴収

自動ゲート及び園内事前精算機により、駐車場利用者からの料金徴収を実施した。

③ その他事業

(a) 目的

コインロッカーや自動販売機を設置し、来場者にサービスを提供した。また、ケータリングカー等を配置し、飲食を提供した。

(b) 事業内容

(ア) コインロッカーの設置

エントランス棟にコインロッカーを設置し、来場者の利用に供した。また、エントランス棟総合案内において手荷物預かりサービスを実施した。

(イ) 自動販売機の設置

園内6箇所に自動販売機を設置し、来場者の利用に供した。

(ウ) 収蔵品等の画像使用

規程を整備し、列品等を来場者の特別観覧に供した。

(エ) バナー広告

規程を整備し、ウポポイ公式HPへの民間企業等の広告掲載を受け付けた。

(オ) ケータリングカー等の配置

登録・出店に係る要領を定め、園内適所にケータリングカー等を配置し、来場者の利用に供した。

Ⅶ その他

○ 助成事業関係

令和2年度の助成申請に向け助成事業案内を作成した。

資料名	作成時期	作成数	配付先
助成事業案内令和3年度版	1月	150部	北海道アイヌ協会、各アイヌ協会、アイヌ関係団体、道内博物館ほか

・事業説明会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施中止。

第4 賛助会員の状況

区分	入会者数	退会者数	継続数	備考
個人会員	5	8	95	アイヌ文化普及啓発資料として、カレンダーを作成
法人会員	1	0	8	
合計	6	8	103	

第5 事業報告の附属説明調書 該当なし